

授業概要

科目名	人間の理解				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	授業の種類	講義・演習	必修	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	人間の多面的な理解を基礎に、介護福祉士としての倫理基盤である尊厳の保持と自立について理解し、適応能力を養うことを目的とする。							
授業概要	人権思想の歴史的展開や福祉理念の変遷とともに、人間の尊厳や人権、権利擁護について講義し、自立支援の関係性を理解することで適応能力が養われるように講義する。							
到達目標	1. 人間の尊厳と人権・福祉理念を理解できる。 2. 自立の考え方を理解できる。 3. 尊厳を守る介護と自立支援の関係性を理解できる							
回数	項目	内容					授業・学習方法	
1	導入（オリエンテーション）	授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明					講義	
2	第1章 人間の尊厳と自立	第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念					講義	
3	第1章 人間の尊厳と自立	第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念					講義	
4	第1章 人間の尊厳と自立	第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念					講義	
5	第1章 人間の尊厳と自立	第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念					講義	
6	第1章 人間の尊厳と自立	第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念					講義	
7	第1章 人間の尊厳と自立	第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念					講義・演習	
8	第1章 人間の尊厳と自立	第1節 人間の尊厳と人権・福祉理念					講義・演習	
9	第1章 人間の尊厳と自立	第2節 自立のあり方					講義	
10	第1章 人間の尊厳と自立	第2節 自立のあり方					講義	
11	第1章 人間の尊厳と自立	第2節 自立のあり方					講義	
12	第1章 人間の尊厳と自立	第2節 自立のあり方					講義	
13	第1章 人間の尊厳と自立	第2節 自立のあり方					講義・演習	
14	第1章 人間の尊厳と自立	第2節 自立のあり方					講義・演習	
15	第1章 人間の尊厳と自立	まとめ					講義	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座 1 人間の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				定期試験 60% 授業態度（授業貢献度） 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	人間関係論				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有 無
目的及びねらい	人間関係の形成やチームで働く力を養うためのコミュニケーションの基礎的な知識を修得する。							
授業概要	対人関係を形成するためのコミュニケーションの基礎が習得出来るように講義をする。また、基本的態度や援助関係のための原則が習得できるように講義する。							
到達目標	1. 自分と他者が理解できる。 2. 対人関係における言語的コミュニケーション及び非言語的コミュニケーションが理解できる。 3. 対人援助における傾聴、受容、共感が理解でき、コミュニケーションの基礎が習得できる。							
回数	項目	内容					授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)	授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明					講義	
2	第2章 人間関係とコミュニケーション	第1節 人間と人間関係					講義	
3	第2章 人間関係とコミュニケーション	第1節 人間と人間関係					講義	
4	第2章 人間関係とコミュニケーション	第1節 人間と人間関係					講義・演習	
5	第2章 人間関係とコミュニケーション	第2節 対人関係におけるコミュニケーション					講義	
6	第2章 人間関係とコミュニケーション	第2節 対人関係におけるコミュニケーション					講義	
7	第2章 人間関係とコミュニケーション	第2節 対人関係におけるコミュニケーション					講義・演習	
8	第2章 人間関係とコミュニケーション	第2節 対人関係におけるコミュニケーション					講義・演習	
9	第2章 人間関係とコミュニケーション	第3節 対人援助関係とコミュニケーション					講義	
10	第2章 人間関係とコミュニケーション	第3節 対人援助関係とコミュニケーション					講義	
11	第2章 人間関係とコミュニケーション	第3節 対人援助関係とコミュニケーション					講義	
12	第2章 人間関係とコミュニケーション	第3節 対人援助関係とコミュニケーション					講義・演習	
13	第2章 人間関係とコミュニケーション	第4節 組織におけるコミュニケーション					講義・演習	
14	第2章 人間関係とコミュニケーション	第4節 組織におけるコミュニケーション					講義・演習	
15	第2章 人間関係とコミュニケーション	まとめ					講義	
【使用テキスト】 ・「最新・介護福祉士要請講座 1 人間の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ					【単位認定の方法及び評価基準】 定期試験 60% 授業態度 (授業貢献度) 30% 成果物 10%			

授業概要

科目名	チームマネジメント				単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	通年	授業の種類	講義・演習	必須		
目的及びねらい	介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解する。							
授業概要	介護福祉士にチームマネジメントが求められる背景を解説し、協働のあり方、チームの実践力の向上につながる人材育成、自己研鑽について講義する。							
到達目標	1. 介護福祉士にチームマネジメントが求められることが理解できる。 2. チームの実践力の向上につながる人材育成・自己研鑽を理解できる。 3. 組織の構造と機能の役割の中に自分も一員としてかかわることが理解できる。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入（オリエンテーション）			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第3章 介護実践におけるチームマネジメント			第1節 介護実践におけるチームマネジメントの意義			講義	
3	第3章 介護実践におけるチームマネジメント			第1節 介護実践におけるチームマネジメントの意義			講義	
4	第3章 介護実践におけるチームマネジメント			第1節 介護実践におけるマネジメントの意義			講義・演習	
5	第3章 介護実践におけるチームマネジメント			第2節 ケアを展開するためのチームマネジメント			講義	
6	第3章 介護実践におけるチームマネジメント			第2節 ケアを展開するためのチームマネジメント			講義	
7	第3章 介護実践におけるチームマネジメント			第2節 ケアを展開するためのチームマネジメント			講義・演習	
8	第3章 介護実践におけるチームマネジメント			第3節 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント			講義	
9	第3章 介護実践におけるチームマネジメント			第3節 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント			講義	
10	第3章 介護実践におけるチームマネジメント			第3節 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント			講義	
11	第3章 介護実践におけるチームマネジメント			第3節 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント			講義・演習	
12	第3章 人間関係とコミュニケーション			第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント			講義	
13	第3章 人間関係とコミュニケーション			第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント			講義	
14	第3章 人間関係とコミュニケーション			第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント			講義	
15	定期試験			試験・振り返り			試験	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座 1 人間の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				定期試験 60% 授業態度（授業貢献度） 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	社会の理解 I				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	対象者の生活地域の中で支えていく観点から地域社会におけるその生活とその支援についての基礎的な知識を理解し、生活と社会の関係性を体系的に理解できる。社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解できる。							
授業概要	個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養えるように講義し、対象者の生活の場としての地域という観点から地域包括ケアの基礎的な知識が理解出来る様に講義する。社会保障制度の基本的な考え方としきみについて説明し、現状や課題を捉えられるように講義する。							
到達目標	1. 家族、地域、社会のしくみと生活の構造について理解できる。 2. 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としきみ、その実現のための制度や施策を理解できる。 3. 社会保障制度の基本的な考え方としきみが理解でき、社会保障の現状と課題を捉えることができる。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第1章 社会と生活のしくみ			第1節 生活の基本機能			講義	
3	第1章 社会と生活のしくみ			第2節 ライフスタイルの変化			講義	
4	第1章 社会と生活のしくみ			第3節 家族の機能と役割			講義	
5	第1章 社会と生活のしくみ			第4節 社会・組織の機能と役割			講義	
6	第1章 社会と生活のしくみ			第5節 地域・地域社会			講義	
7	第1章 社会と生活のしくみ			第6節 地域社会における生活支援			講義・演習	
8	第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策			第1節 地域福祉の発展			講義	
9	第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策			第2節 地域共生社会			講義	
10	第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策			第3節 地域包括ケア			講義	
11	第3章 社会保障制度			第1節 社会保障の基本的な考え方			講義	
12	第3章 社会保障制度			第2節 日本の社会保障制度の発達			講義	
13	第3章 社会保障制度			第3節 日本の社会保障制度のしくみ			講義	
14	第3章 社会保障制度			第4節 現代社会と社会保障制度			講義	
15	第3章 社会保障制度			第4節 現代社会と社会保障制度・まとめ			講義・演習	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座 2 社会の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				定期試験 60% 授業態度 (授業貢献度) 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	社会の理解II				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
目的及びねらい	介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策について基礎的な知識を身に付け、高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度、施策について基礎的な知識を修得する。							
授業概要	高齢者保健福祉制度、介護保険制度、障害者保険福祉制度の内容及び権利擁護や個人情報保護が理解出来る様に講義する。							
到達目標	1. 高齢者保健福祉制度を理解し、高齢者福祉の現状と課題が捉えられる。 2. 障害者保険福祉制度を理解し、障害者福祉の現状と課題を捉えることができる。 3. 権利擁護や個人情報保護などを理解することが出来る。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度			第1節 高齢者保健福祉の動向			講義	
3	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度			第1節 高齢者保健福祉の動向			講義	
4	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度			第2節 高齢者保健福祉に関連する法体系			講義	
5	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度			第2節 高齢者保健福祉に関連する法体系			講義	
6	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度			第3節 介護保険制度			講義	
7	第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度			第3節 介護保険制度			講義	
8	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度			第1節 障害者保健福祉の動向			講義	
9	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度			第2節 障害者の定義			講義	
10	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度			第3節 障害者保健福祉に関連する制度			講義	
11	第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度			第4節 障害者総合支援制度			講義・演習	
12	第6章 介護実践に関連する諸制度			第1節 個人の権利を守る制度			講義	
13	第6章 介護実践に関連する諸制度			第2節 保健医療に関する制度			講義	
14	第6章 介護実践に関連する諸制度			第3節 貧困と生活困窮に関する制度			講義	
15	第6章 介護実践に関連する諸制度			第4節 地域生活を支援する制度・まとめ			講義・まとめ	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座 2 社会の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				定期試験 60% 授業態度 (授業貢献度) 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	法と人権				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	授業の種類	講義・演習	選択	授業担当者 実務経験	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
目的及びねらい	社会生活において法の作用や役割・人権について理解させると同時に、憲法と関係する法の基礎を理解させて、介護福祉士としてまた社会人として必要な法律の基礎を学び、人権意識の重要性を学ぶ。							
授業概要	介護福祉士として法律の基礎知識と人権の重要性を学びながら、立派な社会人として学生が成長できるように学ばせる。							
到達目標	1. 社会生活における法の作用や役割について理解する。 2. 憲法やその他福祉に関する法の基礎が理解できる。 3. 基本的人権や各種制度について介護福祉士に必要な内容について理解する。							
回数	項目	内容					授業・学習方法	
1	法学概論と憲法の意義について						講義	
2	社会の変遷と法	社会生活と私					講義	
3	裁判基準としての法						講義	
4	法の効力と濫用について						講義	
5	私権について						講義	
6	国民の義務と基本的人権について						講義	
7	憲法の基本原理						講義	
8	憲法について						講義	
9	権利と義務・プライバシーについて						講義	
10	個人を尊重する原理と新しい人権について						講義	
11	人権の享有主体について						講義・演習	
12	幸福追求権について						講義	
13	行政法と民法・介護福祉士法について						講義	
14	各種制度・関係法令・判例等について						講義	
15	定期試験	試験・まとめ					試験	
【使用テキスト】 参考文献適時紹介					【単位認定の方法及び評価基準】			
					定期試験		70%	
					成果物		30%	

授業概要

科目名	生活と文化 (音楽療法)				単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	通年	授業の種類	講義・ 演習	選択	授業担当者 実務経験	有・ 無
目的及びねらい	音や音楽の持つ生理的、心理的、社会的働きを体験し、音や音楽によるノンバーバルコミュニケーションの可能性を理解させる。							
授業概要	ワークショップを中心に講義する。							
到達目標	1. 音や音楽によるノンバーバルコミュニケーションからみえる自分自身緒発見や他社理解が深まる。							
回数	項目	内容					授業・学習方法	
1	音楽とは	音楽教育との違い					講義	
2	音楽とは	音や音楽の体験					講義・演習	
3	音や音楽の可能性	音や音楽のさまざまな体験					講義・演習	
4	音や音楽の可能性	音や音楽にみえる「自分」の発見					講義	
5	音や音楽の可能性	音や音楽にみえる呼吸・心身リズム・テンポ・人の発達					講義・演習	
6	音や音楽の可能性	音でつながることを楽器を通して体験					講義・演習	
7	音楽療法の具体的方法と展開	楽器によるノンバーバルコミュニケーション					講義・演習	
8	音楽療法の具体的方法と展開	ドラム同質奏法					講義・演習	
9	音楽療法の具体的方法と展開	リズム・ムーブメントやリラクゼーションを通しての呼吸のバリエーション					講義・演習	
10	音楽療法の具体的方法と展開	音や音楽を漢字、音絵で描く					演習	
11	音楽技術の習得	さまざまな声の出し方、楽器の操作、リズム打ち					演習	
12	音楽技術の習得	音声アンサンブル・即興演奏・リズム打ち					演習	
13	実技試験	リズム打ち：Duet No.3 テキスト P36					試験	
14	筆記試験	試験					試験	
15	作品発表	発表					演習	
【使用テキスト】					【単位認定の方法及び評価基準】			
・「はらっぱ de 楽譜集」中島恵子 こども音楽センター 1998					筆記試験	30%		
・「音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー」中島恵子・山下恵子 春秋社 2002					実技試験	30%		
・「高齢者の音楽療法」貫行子「高齢者の音楽療法」音楽乃友社 1996					作品発表	30%		
					授業態度	10%		

授業概要

科目名	生活と文化（栄養・調理）				単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	授業の種類	講義・ 演習	選択	授業担当者 実務経験	有・ 無
目的及びねらい	<p>尊厳の保持の観点からどのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めて、介護の基礎となる家庭生活に関する食事の知識、調理の技術を習得させ、個人に応じた介護支援ができる能力を養う。</p>							
授業概要	<p>自立に向けた食事についての基礎的な栄養学を講義し、調理実習指導を行う。</p>							
到達目標	<p>1. 栄養に関する基礎的知識が理解できる。 2. 調理実習において基礎的技術を習得できる。</p>							
回数	項目	内容					授業・学習方法	
1	家庭生活における食事の意義と目的	食生活の基本知識					講義	
2	家庭生活における食事の意義と目的	食生活の基本知識					講義	
3	家庭生活における食事の意義と目的	調理の基本と食品衛生					講義	
4	家庭生活における食事の意義と目的	調理の基本と食品衛生					講義	
5	家事（調理）支援における介助						講義・演習	
6	家事（調理）支援における介助						講義・演習	
7	高齢者の栄養						講義・演習	
8	献立作成	高齢者					講義・演習	
9	献立作成	各種疾病別					講義・演習	
10	調理実習	調理操作の基礎技術					演習	
11	調理実習	プレ調理実習（ソフト食）					演習	
12	調理実習	主食・主菜・副菜・汁物の基本献立					演習	
13	調理実習	噛みにくい人の献立					演習	
14	調理実習	飲みにくい人の献立					演習	
15	調理実習	とろみ剤の試食					演習	
【使用テキスト】 ・担当教員作成レジュメ					【単位認定の方法及び評価基準】			
					定期試験	70%		
					成果物	30%		

授業概要

科目名	情報処理				単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	通年	授業の種類	講義・演習	選択	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	福祉の現場において、全ての書類等の作成に関わる文書作成等に欠かせない、パソコンでの基礎的知識を習得する。							
授業概要	パソコンを使用し、実際の報告書等の作成やプレゼンテーションソフトを使用し、実践をする。							
到達目標	1. 文書作成ソフト（ワード）を利用して文書作成ができる。 2. 表計算ソフト（エクセル）の操作が出来る。 3. プレゼンテーションソフト（パワーポイント）の操作ができる。							
回数	項目	内容					授業・学習方法	
1	セキュリティーと情報処理について						講義	
2	文書作成ソフト（ワード）の知識と文書作成実習						講義・演習	
3	文書作成	公文書の作成法					講義・演習	
4	ワード応用	さまざまなツールの利用					講義・演習	
5	ワードの応用	ポスター作成					講義・演習	
6	表計算ソフトの基礎						講義・演習	
7	表計算ソフトの応用	簡単な関数					講義・演習	
8	表計算ソフトの応用	グラフの作成					講義・演習	
9	表計算ソフトの応用	総合練習					講義・演習	
10	プレゼンテーション（パワーポイント）の基礎						演習	
11	インターネットを利用し、資料収集						演習	
12	プレゼンテーションの作成						演習	
13	プレゼンテーションの作成						演習	
14	プレゼンテーションの作品発表	個人別作成					演習	
15	定期試験	試験					試験	
【使用テキスト】 ・担当教員作成レジュメ					【単位認定の方法及び評価基準】			
					定期試験	60%		
					授業貢献度	30%		
					成果物	10%		

授業概要

科目名	福祉と文化				単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	授業の種類	講義・演習	選択	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	介護福祉士として期待される教養として昭和史と介護福祉士として望まれる教養としての水路付けを目的とする。							
授業概要	昭和の歴史を学ぶとともに介護福祉士として必要な技術を演習にて習得する。							
到達目標	1. 介護福祉士として、理解すべき昭和史、並びに生活技術の習得							
回数	内 容							授業・学習方法
1	昭和の文化史							講義
2	昭和の歌（童謡とその当時の流行歌について）							講義・演習
3	職業倫理							講義
4	園芸療法							演習
5	園芸療法							講義・演習
6	マジックセラピー							演習
7	介護予防							演習
8	介護予防							演習
9	メイク療法							講義・演習
10	メイク療法							演習
11	着付け講座							演習
12	着付け講座							演習
13	口腔ケア							演習
14	救急救命講習							演習
15	救急救命講習							演習
【使用テキスト】 ・参考資料適時紹介					【単位認定の方法及び評価基準】 授業出席 10% レポート 90%			

授業概要

科目名	介護の基本 I				単位数	4	時間数	60
対象学生	1年	開設期	通年	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有 無
目的及びねらい	介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士の役割を理解する。介護福祉の専門性と倫理を学び、専門職としての能力と態度を理解する。							
授業概要	介護福祉の基本として成り立ち及び概念の変遷を講義し、介護福祉士の役割を理解出来る様に講義する。介護福祉士の倫理日本介護福祉士会倫理綱領を通して理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成でき、自立支援をICFの視点から講義する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護ニーズおよび介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉えることができる。 2. 地域や施設・在宅の場、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能、さらに社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定等について習得できる。 3. 介護福祉士の倫理を理解できる。 4. ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法が習得できる。 							
回数	項目	内容					授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)	授業概要、到達目標及び授業の進行に関する説明					講義	
2	第1章 介護福祉士の基本となる理念	第1節 介護福祉士を取り巻く状況					講義	
3	第1章 介護福祉士の基本となる理念	第1節 ”					講義	
4	第1章 介護福祉士の基本となる理念	第2節 介護福祉の歴史					講義・演習	
5	第1章 介護福祉士の基本となる理念	第2節 介護福祉の歴史					講義	
6	第1章 介護福祉士の基本となる理念	第2節 介護福祉の歴史					講義・演習	
7	第1章 介護福祉士の基本となる理念	第3節 介護福祉の基本理念					講義	
8	第1章 介護福祉士の基本となる理念	第3節 介護福祉の基本理念					講義	
9	第2章 介護福祉士の役割と機能	第1節 社会福祉士及び介護福祉士法					講義	
10	第2章 介護福祉士の役割と機能	第1節 社会福祉士及び介護福祉士法					講義	
11	第2章 介護福祉士の役割と機能	第2節 介護福祉士の活動の場と役割					講義	
12	第2章 介護福祉士の役割と機能	第2節 社会福祉士及び介護福祉士法					講義・演習	

13	第2章 介護福祉士の役割と機能	第3節 介護福祉士に求められる役割とその養成	講義
14	第2章 介護福祉士の役割と機能	第4節 介護福祉士を支える団体	講義
15	第2章 介護福祉士の役割と機能	第4節 介護福祉士を支える団体	講義
16	第3章 介護福祉士の倫理	第1節 介護福祉士の倫理	講義
17	第3章 介護福祉士の倫理	第2節 日本介護福祉士会の倫理綱領	講義
18	第3章 介護福祉士の倫理	第2節 日本介護福祉士会の倫理綱領	講義
19	第4章 自立に向けた介護福	第1節 介護福祉における自立支援	講義・演習
20	第4章 自立に向けた介護	第1節 介護福祉における自立支援	講義
21	第4章 自立に向けた介護	第1節 介護福祉における自立支援	講義
22	第4章 自立に向けた介護	第2節 ICF の考え方	講義・演習
23	第4章 自立に向けた介護	第2節 ICF の考え方	講義
24	第4章 自立に向けた介護	第2節 ICF の考え方	講義
25	第4章 自立に向けた介護	第3節 自立支援とリハビリテーション	講義
26	第4章 自立に向けた介護	第3節 自立支援とリハビリテーション	講義
27	第4章 自立に向けた介護	第3節 自立支援とリハビリテーション	講義・演習
28	第4章 自立に向けた介護	第4節 自立支援と介護予防	講義
29	第4章 自立に向けた介護	第4節 自立支援と介護予防	講義
30	第4章 自立に向けた介護	まとめ	講義
【使用テキスト】 ・「最新・介護福祉士要請講座 3 介護の基本 I」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ		【単位認定の方法及び評価基準】 定期試験 60% 授業貢献度 30% 成果物 10%	

授業概要

科目名	介護の基本Ⅱ				単位数	4	時間数	60
対象学生	2年	開設期	通年	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有 無
目的及びねらい	介護を实践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識を習得し、介護实践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。							
授業概要	介護を受けて生活する人および生活を解説し、フォーマル及びインフォーマルな支援、地域連携について講義する。介護における安全性及び介護従事者の健康管理が理解でき、リスクマネジメント及び自身のこころと身体の健康管理と労働環境の両面から学べるように講義する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要としている人の生活が理解できる。 2. 介護におけるリスクマネジメントが理解できる。 3. 多職種協働について理解できる。 4. 介護従事者の安全について自身のこころと身体の健康管理と、労働環境の両面から理解できる。 							
回数	項目	内容					授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)	授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明					講義	
2	第1章 介護福祉を必要とする人の理解	第1節 私たちの生活の理解					講義	
3	第1章 介護福祉を必要とする人の理解	第1節 私たちの生活の理解					講義	
4	第1章 介護福祉を必要とする人の理解	第2節 介護福祉を必要とする人たちの暮らし					講義	
5	第1章 介護福祉を必要とする人の理解	第2節 介護福祉を必要とする人たちの暮らし					講義	
6	第1章 介護福祉を必要とする人の理解	第3節 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解					講義	
7	第1章 介護福祉を必要とする人の理解	第3節 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解					講義	
8	第1章 介護福祉を必要とする人の理解	第4節 生活のしづらさの理解とその支援					講義	
9	第1章 介護福祉を必要とする人の理解	第4節 生活のしづらさの理解とその支援					講義	
10	第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	第1節 生活を支えるしくみ					講義	
11	第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	第2節 生活を支えるフォーマルベース (社会的ベース) とは					講義	
12	第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	第3節 生活を支えるフォーマルベース (私的ベース) とは					講義	
13	第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	第3節 生活を支えるインフォーマルベース (私的ベース) とは					講義	

14	第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	第4節 地域連携	講義
15	第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント	第1節 介護における安全の確保	講義
16	第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント	第2節 リスクマネジメントとは何か	講義
17	第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント	第2節 リスクマネジメントとは何か	講義
18	第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント	第3節 感染症対策	講義
19	第4章 協働する多職種の機能と役割	第1節 多職種連携・協働の必要性	講義
20	第4章 協働する多職種の機能と役割	第1節 多職種連携・協働の必要性	講義
21	第4章 協働する多職種の機能と役割	第2節 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	講義
22	第4章 協働する多職種の機能と役割	第2節 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	講義
23	第4章 協働する多職種の機能と役割	第2節 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	講義
24	第4章 協働する多職種の機能と役割	第3節 保健・医療・福祉職の役割と機能	講義
25	第4章 協働する多職種の機能と役割	第3節 保健・医療・福祉職の役割と機能	講義
26	第4章 協働する多職種の機能と役割	第4節 多職種連携・協働の実際	講義
27	第5章 介護従事者の安全	第1節 健康管理の意義と目的	講義
28	第5章 介護従事者の安全	第2節 こころの健康管理	講義
29	第5章 介護従事者の安全	第3節 身体の健康管理	講義
30	第5章 介護従事者の安全	第4節 労働管理の整備・まとめ	講義
【使用テキスト】 ・「最新・介護福祉士要請講座 4 介護の基本Ⅱ」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ		【単位認定の方法及び評価基準】 定期試験 60% 授業態度（授業貢献度） 30% 成果物 10%	

授業概要

科目名	レクリエーションⅠ				単位数	1	時間数	30	
対象学生	1年	開設期	後期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無	
目的及びねらい	利用者個人の自立を目標としたレクリエーション活動の支援方法について学び、個人の意見と個人に即した多様なレクリエーションを生活の中で提供できる知識と技術を習得する。								
授業概要	福祉現場に即したレクリエーション活動の能力と実践力を習得させる。								
到達目標	1. リクレーション活動の社会的意義を理解する。 2. レクリエーション活動の援助者としての役割について理解する。 3. レクリエーション活動の実践援助能力を習得向上する。								
回数	項目		内容				授業・学習方法		
1	レクリエーション概論		レクリエーションの意義、インストラクターの役割				講義		
2	楽しさと心の元気づくりの理論		対象者と理解				講義		
3	楽しさと心の元気づくりの理論		子どもや高齢者、障害のある人の心の元気づくり				講義		
4	レクリエーション支援の理論		コミュニケーションと信頼関係づくり				講義		
5	レクリエーション支援の理論		集団づくりの理論、自主的主体的に楽しむ力をはぐむ理論				講義		
6	レクリエーション支援の方法 ①		信頼関係づくりの理論・自主的主体的に楽しむ力を育む理論				講義		
7	" ②		"				講義		
8	" ③		アイスブレイキング、活動の展開				講義		
9	" ④		"				演習		
10	楽しさをとおした対象者の心の元気づくり						講義		
11	心の元気と地域のきずな						講義		
12	良好な集団づくりの理論						講義		
13	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論						演習		
14			試験				講義		
15			振り返り・まとめ				試験		
【使用テキスト】					【単位認定の方法及び評価基準】				
・「楽しさをとおした心の元気づくり」公益社団法人日本レクリエーション協会 ・参考文献適時紹介					実技試験 60% 授業態度・出席 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	レクリエーションⅡ				単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	通年	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	社会福祉サービスにおけるレクリエーションの位置づけを明確にする。高齢者のレクリエーションだけでなく障害者のレクリエーションをも視野に入れノーマライゼーションの思想のもとすべての人々が共生する地域福祉のなかでレクリエーションを展開できる能力を培う。							
授業概要	福祉レクリエーション援助能力と実践力を習得させる。							
到達目標	1. 福祉サービスの一環としてのレクリエーションを理解する。 2. 福祉レクリエーション援助のプロセスを理解する。 3. 福祉レクリエーションの援助者の実践援助能力を習得向上する。							
回数	項目	内容					授業・学習方法	
1	福祉レクリエーション援助	福祉サービスの一環としてのレクリエーション援助①					講義	
2	福祉レクリエーション援助	福祉サービスの一環としてのレクリエーション援助②					講義	
3	福祉レクリエーション援助	福祉サービスの一環としてのレクリエーション援助③					講義	
4	福祉レクリエーション援助	福祉レクリエーション援助の意義と役割①					講義	
5	福祉レクリエーション援助	福祉レクリエーション援助の意義と役割②					講義	
6	福祉レクリエーション援助	福祉レクリエーション援助の特質①					講義	
7	福祉レクリエーション援助	福祉レクリエーション援助の特質②					講義	
8	福祉レクリエーション援助	これからの福祉レクリエーション援助					講義	
9	福祉レクリエーション援助の全体像	福祉レクリエーション援助における利用者の理解					演習	
10	福祉レクリエーション援助の全体像	福祉レクリエーション援助における援助者の理解					演習	
11	福祉レクリエーション援助の全体像	福祉レクリエーション援助の体系					演習	
12	福祉レクリエーション援助の全体像	福祉レクリエーション援助のプロセス					演習	
13	福祉レクリエーション援助者の基本的スタンス	福祉レクリエーションの主体者と援助者					演習	
14	福祉レクリエーション援助者の基本的スタンス	媒介者としての福祉レクリエーション援助					演習	
15	まとめ	試験					試験	
【使用テキスト】					【単位認定の方法及び評価基準】			
・「福祉レクリエーション総論」 中央法規出版					試験	60%		
・担当教員作成資料					演習・成果物	30%		
					出席	10%		

授業概要

科目名	コミュニケーション技術総論				単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	授業の種類	講義・ 演習	必須	授業担当者 実務経験	有・ 無
目的及びねらい	本人、家族等の関係性の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義を学び、基礎的な知識を習得する。							
授業概要	コミュニケーションの意義や援助関係の構築をするための基本的な知識を講義する。							
到達目標	1. 介護を実践する基本となるコミュニケーションの意義が理解できる。 2. 対象者との支援関係やチームケアを実践するためのコミュニケーションについての考え方や技術を習得できる。							
回数	項目	内容					授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)	授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明					講義	
2	第1章 介護におけるコミュニケーションの基本	第1節 介護におけるコミュニケーションとは					講義・演習	
3	第1章 介護におけるコミュニケーションの基本	第2節 介護におけるコミュニケーションの対象					講義・演習	
4	第1章 介護におけるコミュニケーションの基本	第2節 介護におけるコミュニケーションの対象					講義・演習	
5	第1章 介護におけるコミュニケーションの基本	第3節 援助関係とコミュニケーション					講義・演習	
6	第1章 介護におけるコミュニケーションの基本	第3節 援助関係とコミュニケーション					講義・演習	
7	第1章 介護におけるコミュニケーションの基本	第3節 援助関係とコミュニケーション					講義・演習	
8	第2章 コミュニケーションの基本技術	第1節 コミュニケーション態度に関する基本技術					講義・演習	
9	第2章 コミュニケーションの基本技術	第1節 コミュニケーション態度に関する基本技術					講義・演習	
10	第2章 コミュニケーションの基本技術	第2節 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本					講義・演習	
11	第2章 コミュニケーションの基本技術	第2節 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本					講義・演習	
12	第2章 コミュニケーションの基本技術	第3節 目的別のコミュニケーション技術					講義・演習	
13	第2章 コミュニケーションの基本技術	第3節 目的別のコミュニケーション技術					講義・演習	
14	第2章 コミュニケーションの基本技術	第4節 集団におけるコミュニケーション技術					講義・演習	
15	第2章 コミュニケーションの基本技術	第4節 集団におけるコミュニケーション技術					講義・演習	
【使用テキスト】 ・「最新・介護福祉士要請講座5 コミュニケーション技術」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ					【単位認定の方法及び評価基準】 定期試験 60% 授業態度 (授業貢献度) 30% 成果物 10%			

授業概要

科目名	コミュニケーション技術各論 I				単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 経験年数	有・無
目的及びねらい	本人、家族等の関係性の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義を学び、基礎的な知識を習得する。							
授業概要	様々なコミュニケーション障害のある人の特性と支援方法を演習を通して理解させ、利用者の家族とのかかわり方やチーム力を高めるコミュニケーション方法を講義する。							
到達目標	1. さまざまなコミュニケーション障害のある人の特性が理解できる。 2. 利用者の家族との関わり方が理解できる。 3. チーム力を高めるコミュニケーションの方法が理解できる。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入（オリエンテーション）			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第3章対象者の特性に応じたコミュニケーション			第1節 コミュニケーション障害への対応の基本			講義	
3	第3章対象者の特性に応じたコミュニケーション			第1節 コミュニケーション障害への対応の基本			演習	
4	第3章対象者の特性に応じたコミュニケーション			第1節 コミュニケーション障害への対応の基本			演習	
5	第3章対象者の特性に応じたコミュニケーション			第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援			講義	
6	第3章対象者の特性に応じたコミュニケーション			第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援			講義・演習	
7	第3章対象者の特性に応じたコミュニケーション			第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援			講義・演習	
8	第3章対象者の特性に応じたコミュニケーション			第2節 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援			講義・演習	
9	第4章家族とのコミュニケーション			第1節 家族との関係づくり			講義・演習	
10	第4章家族とのコミュニケーション			第2節 家族への助言・指導・調整			講義・演習	
11	第4章家族とのコミュニケーション			第3節 家族関係と介護ストレスへの対応			講義・演習	
12	第5章介護におけるチームのコミュニケーション			第1節 チームのコミュニケーションとは			演習	
13	第5章介護におけるチームのコミュニケーション			第2節 報告・連絡・相談の技術			講義・演習	
14	第5章介護におけるチームのコミュニケーション			第3節 記録の技術 第4章 会議・議事進行・説明の技術			講義・演習	
15	第5章介護におけるチームのコミュニケーション			第5節 事例検討に関する技術 第6節 情報の活用と管理のための技術			講義・まとめ	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座 5 コミュニケーション技術」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				定期試験 60% 授業態度（授業貢献度） 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	コミュニケーション技術各論Ⅱ（手話）			単位数	1	時間数	15
対象学生	2年	開設期	前期	授業の種類	講義・演習	必須	
目的及びねらい	本人、家族等の関係性の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義を学び、基礎的な知識を習得する。						
授業概要	聴覚障害者に対するコミュニケーション方法としての手話が理解でき、簡単な手話での会話ができるように講義する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害者とのコミュニケーション技法としての基本的な手話が理解できる。 2. 簡単な手話での会話理解できる。 						
回数	項目	内容				授業・学習方法	
1	導入（オリエンテーション）	授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明				講義	
2	第1章 手話の基礎知識	手話の基礎知識				講義・演習	
3	第2章 シーン別会話・単語集	シーン1 あいさつ ・ シーン2 自己紹介				講義・演習	
4	第2章 シーン別会話・単語集	シーン3 家族 ・ シーン4 趣味				講義・演習	
5	第2章 シーン別会話・単語集	シーン5 料理・買い物 ・ シーン6 病院				講義・演習	
6	第2章 シーン別会話・単語集	シーン7 交通 ・ シーン8 学校				講義・演習	
7	第2章 シーン別会話・単語集	シーン9 仕事 ・ シーン10 天気・自然				講義・演習	
8	第2章 シーン別会話・単語集	まとめ、試験				講義・演習	
【使用テキスト】 ・「はじめて出会う手話」 一般財団法人全日本ろうあ連盟 2018年4月発行 日本印刷 ・担当教員作成レジュメ				【単位認定の方法及び評価基準】 定期試験 70% 授業態度（授業貢献度） 20% 成果物 10%			

授業概要

科目名	生活支援技術 I				単位数	4	時間数	120
対象学生	1年	開設期	通年	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠にもとづいた介護実践を行うための知識・技術を習得し、生活支援を理解し、自立に向けた居住環境の整備および移動の介護を習得する。対象者が、個々の状態に応じ自立に向けた家事の介護を習得する。また、福祉用具を活用する意義と適切な活用する知識や技術を習得し、応急手当や緊急時対応や災害時における生活支援を学習する。</p>							
授業概要	<p>ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を講義し、居住環境、福祉用具を整備するとともに、「移動」における介護技術についての講義および演習を通して習得できるようにする。福祉用具、家事支援における介護技術および応急手当や緊急時の対応、被災地での活動に伴う生活支援について講義し、演習を通して習得できるようにする。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士が行う生活支援の意義と目的が理解できる。 2. 住まいの役割と機能、加齢と生活空間、快適な室内環境を理解できる。 3. 移動、移乗における具体的な介護技術を習得する。 4. 生活支援における適切な福祉用具の選択をする視点を習得する。 5. 具体的な家事支援における介護技術が習得できる。 6. 応急手当や緊急時の対応が理解できる。 7. 被災地での生活支援について理解できる。 							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第1章 生活支援の理解			第1節 生活支援の基本的な考え方			講義	
3	第1章 生活支援の理解			第1節 生活支援の基本的な考え方			講義	
4	第1章 生活支援の理解			第2節 生活支援と介護過程			講義・演習	
5	第1章 生活支援の理解			第2節 生活支援と介護過程			演習	
6	第1章 生活支援の理解			第2節 生活支援と介護過程			演習	
7	第1章 生活支援の理解			第3節 生活支援とチームアプローチ			講義	
8	第1章 生活支援の理解			第3節 生活支援とチームアプローチ			講義・演習	

9	第2章 居住環境の整備	第1節 住まいの役割と機能	講義
10	第2章 居住環境の整備	第1節 住まいの役割と機能	講義
11	第2章 居住環境の整備	第2節 生活空間	講義
12	第2章 居住環境の整備	第2節 生活空間	講義・演習
13	第2章 居住環境の整備	第3節 快適な室内環境	講義
14	第2章 居住環境の整備	第3節 快適な室内環境	講義・演習
15	第2章 居住環境の整備	第3節 快適な室内環境	講義・演習
16	第2章 居住環境の整備	第3節 快適な室内環境	講義
17	第2章 居住環境の整備	第3節 快適な室内環境	講義・演習
18	第2章 居住環境の整備	第3節 快適な室内環境	講義
19	第2章 居住環境の整備	第3節 快適な室内環境	講義・演習
20	第2章 居住環境の整備	第4節 安全に暮らすための生活環境	講義・演習
21	第2章 居住環境の整備	第4節 安全に暮らすための生活環境	講義・演習
22	第2章 居住環境の整備	第5節 居住環境の整備における多職種との連携	講義
23	第2章 居住環境の整備	第5節 居住環境の整備における多職種との連携	講義・演習
24	第3章 自立に向けた移動の介護	第1節 自立した移動とは	講義
25	第3章 自立に向けた移動の介護	第1節 自立した移動とは	演習
26	第3章 自立に向けた移動の介護	第2節 自立に向けた移動・移乗介護	演習
27	第3章 自立に向けた移動の介護	第2節 自立に向けた移動・移乗介護	演習
28	第3章 自立に向けた移動の介護	第2節 自立に向けた移動・移乗介護	演習
29	第3章 自立に向けた移動の介護	第3節 移動の介護における多職種との連携	講義・演習
30	第3章 自立に向けた移動の介護	第3節 移動の介護における多職種との連携	講義・演習
31	第3章 自立に向けた移動の介護	第3節 移動の介護における多職種との連携	講義・演習
32	実技試験	試験	試験
33	第4章 福祉用具の意義	第1節 生活支援における福祉用具の重要性	講義
34	第4章 福祉用具の意義	第1節 生活支援における福祉用具の重要性	講義・演習
35	第4章 福祉用具の意義	第2節 福祉用具の種類	講義
36	第4章 福祉用具の意義	第2節 福祉用具の種類	講義・演習
37	第4章 福祉用具の意義	第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点	講義
38	第4章 福祉用具の意義	第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点	講義・演習
39	第4章 福祉用具の意義	第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点	演習

40	第5章 自立に向けた家事の介護	第1節 自立した家事とは	講義						
41	第5章 自立に向けた家事の介護	第1節 自立した家事とは	講義・演習						
42	第5章 自立に向けた家事の介護	第1節 自立した家事とは	演習						
43	第5章 自立に向けた家事の介護	第2節 自立に向けた家事の介護	講義						
44	第5章 自立に向けた家事の介護	第2節 自立に向けた家事の介護	講義・演習						
45	第5章 自立に向けた家事の介護	第2節 自立に向けた家事の介護	講義・演習						
46	第5章 自立に向けた家事の介護	第2節 自立に向けた家事の介護	講義・演習						
47	第5章 自立に向けた家事の介護	第2節 自立に向けた家事の介護	講義・演習						
48	第5章 自立に向けた家事の介護	第2節 自立に向けた家事の介護	講義・演習						
49	第5章 自立に向けた家事の介護	第2節 自立に向けた家事の介護	講義・演習						
50	第5章 自立に向けた家事の介護	第3節 家事の介護における多職種との連携	講義・演習						
51	第5章 自立に向けた家事の介護	第3節 家事の介護における多職種との連携	講義・演習						
52	第6章 応急手当の知識と技術	第1節 応急手当について	講義						
53	第6章 応急手当の知識と技術	第1節 応急手当について	講義						
54	第6章 応急手当の知識と技術	第2節 応急手当の実際	演習						
55	第6章 応急手当の知識と技術	第2節 応急手当の実際	演習						
56	第6章 応急手当の知識と技術	第2節 応急手当の実際	演習						
57	第7章 災害時における生活支援	第1節 被災地における介護福祉職の役割	講義						
58	第7章 災害時における生活支援	第1節 被災地における介護福祉職の役割	講義・演習						
59	第7章 災害時における生活支援	第2節 災害時における生活支援の実際	講義・演習						
60	実技試験	試験	試験						
【使用テキスト】 ・「最新・介護福祉士要請講座 6 生活支援技術Ⅰ」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ		【単位認定の方法及び評価基準】 <table> <tr> <td>定期試験</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>授業態度（授業貢献度）</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>成果物</td> <td>10%</td> </tr> </table>		定期試験	60%	授業態度（授業貢献度）	30%	成果物	10%
定期試験	60%								
授業態度（授業貢献度）	30%								
成果物	10%								

授業概要

科目名	生活支援技術Ⅱ				単位数	4	時間数	120
対象学生	2年	開設期	通年	授業の種類	講義・ 演習	必須	授業担当者 実務経験	有 無
目的及びねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠にもとづいた介護実践を行うための知識・技術を習得し、自立に向けた身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階における介護を習得する。							
授業概要	利用者の状態に応じた身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠について演習を通し習得できるようにする。また人生の最終段階における介護について、対象者だけでなく家族のケアについて講義する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身じたくの流れを理解し、利用者の状態に応じた身じたくの介護を習得する。 2. 介護の基本原則にのっとり個々の状態に応じた食事介助技術が習得でき、安全に配慮ができる。 3. 具体的な入浴と清潔保持の介助方法を習得する。 4. さまざまな排泄介助方法を習得し、利用者の状態に応じた排泄介助が習得できる。 5. 休息・睡眠の環境を整えるためのベッドメイキングが習得できる。 6. 終末期の経過に沿った支援やチームケアの実践について理解できる。 							
回数	項目		内容				授業・学習方法	
1	導入（オリエンテーション）		授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明				講義	
2	第1章 自立に向けた身じたくの介護		第1節 自立した身じたくとは				講義	
3	第1章 自立に向けた身じたくの介護		第1節 自立した身じたくとは				演習	
4	第1章 自立に向けた身じたくの介護		第2節 自立に向けた身じたくの介護				講義・演習	
5	第1章 自立に向けた身じたくの介護		第2節 自立に向けた身じたくの介護				演習	
6	第1章 自立に向けた身じたくの介護		第2節 自立に向けた身じたくの介護				演習	
7	第1章 自立に向けた身じたくの介護		第2節 自立に向けた身じたくの介護				演習	
8	第1章 自立に向けた身じたくの介護		第3節 身じたくの介護における多職種との連携				講義・演習	
9	第1章 自立に向けた身じたくの介護		第3節 身じたくの介護における多職種との連携				演習	
10	実技試験		試験				試験	
11	第2章 自立に向けた食事の介護		第1節 自立した食事とは				講義	
12	第2章 自立に向けた食事の介護		第1節 自立した食事とは				講義	
13	第2章 自立に向けた食事の介護		第2節 自立に向けた食事の介護				講義・演習	
14	第2章 自立に向けた食事の介護		第2節 自立に向けた食事の介護				演習	

15	第2章 自立に向けた食事の介護	第2節 自立に向けた食事の介護	演習
16	第2章 自立に向けた食事の介護	第2節 自立に向けた食事の介護	演習
17	第2章 自立に向けた食事の介護	第2節 自立に向けた食事の介護	演習
18	第2章 自立に向けた食事の介護	第2節 自立に向けた食事の介護	演習
19	第2章 自立に向けた食事の介護	第2節 自立に向けた食事の介護	演習
20	第2章 自立に向けた食事の介護	第3節 食事の介護における多職種との連携	講義
21	実技試験	試験	試験
22	第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	第1節 自立した入浴・清潔の保持とは	講義
23	第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	第1節 自立した入浴・清潔の保持とは	講義
24	第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	第2節 自立に向けた入浴・清潔の保持の介護	講義・演習
25	第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	第2節 自立に向けた入浴・清潔の保持の介護	演習
26	第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	第2節 自立に向けた入浴・清潔の保持の介護	演習
27	第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	第2節 自立に向けた入浴・清潔の保持の介護	演習
28	第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	第2節 自立に向けた入浴・清潔の保持の介護	演習
29	第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	第3節 入浴・清潔の保持の介護における多職種との連携	講義
30	実技試験	試験	試験
31	第4章 自立に向けた排泄の介護	第1節 自立した排泄とは	講義
32	第4章 自立に向けた排泄の介護	第1節 自立した排泄とは	講義
33	第4章 自立に向けた排泄の介護	第1節 自立した排泄とは	講義
34	第4章 自立に向けた排泄の介護	第2節 自立に向けた排泄の介護	演習
35	第4章 自立に向けた排泄の介護	第2節 自立に向けた排泄の介護	演習
36	第4章 自立に向けた排泄の介護	第2節 自立に向けた排泄の介護	演習
37	第4章 自立に向けた排泄の介護	第2節 自立に向けた排泄の介護	演習

38	第4章 自立に向けた排泄の介護	第2節 自立に向けた排泄の介護	演習
39	第4章 自立に向けた排泄の介護	第2節 自立に向けた排泄の介護	演習
40	第4章 自立に向けた排泄の介護	第2節 自立に向けた排泄の介護	演習
41	第4章 自立に向けた排泄の介護	第2節 自立に向けた排泄介護	演習
42	第4章 自立に向けた排泄の介護	第2節 自立に向けた排泄の介護	演習
43	第4章 自立に向けた排泄の介護	第3節 排泄の介護における多職種との連携	講義
44	第4章 自立に向けた排泄の介護	第3節 排泄の介護における多職種との連携	講義
45	実技試験	試験	試験
46	第5章 休息・睡眠の介護	第1節 休息・睡眠とは	講義
47	第5章 休息・睡眠の介護	第1節 休息・睡眠とは	講義
48	第5章 休息・睡眠の介護	第1節 休息・睡眠とは	講義
49	第5章 休息・睡眠の介護	第2節 休息・睡眠の介護	演習
50	第5章 休息・睡眠の介護	第2節 休息・睡眠の介護	演習
51	第5章 休息・睡眠の介護	第2節 休息・睡眠の介護	演習
52	第5章 休息・睡眠の介護	第2節 休息・睡眠の介護	演習
53	第5章 休息・睡眠の介護	第3節 休息・睡眠の介護における多職種との連携	講義・演習
54	実技試験	試験	試験
55	第6章 人生の最終段階における介護	第1節 人生の最終段階の意義と介護の役割	講義
56	第6章 人生の最終段階における介護	第1節 人生の最終段階の意義と介護の役割	講義・演習
57	第6章 人生の最終段階における介護	第2節 人生の最終段階における介護	演習
58	第6章 人生の最終段階における介護	第2節 人生の最終段階における介護	演習
59	第6章 人生の最終段階における介護	第3節 人生の最終段階の介護における多職種との連携	講義
60	筆記試験	試験	試験
【使用テキスト】 ・「最新・介護福祉士要請講座 7 生活支援技術Ⅱ」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ		【単位認定の方法及び評価基準】 定期試験 60% 授業態度（授業貢献度） 30% 成果物 10%	

授業概要

科目名	生活支援技術Ⅲ－1				単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解し、生活上の困りごとを理解する。また、根拠に基づいた介護実践を行うため、各障害・疾病別の生活介護を理解する。							
授業概要	障害や疾病により生活上の困りごとを理解するために、医学的・心理的側面から概要を講義し、介護福祉士としてどのようなかわりができるのかを事例を交えながら講義と演習を行う。							
到達目標	1. 障害や疾病の概要が理解できる。 2. 障害や疾病により生じる生活上の困りごとを理解できる。 3. 各障害や疾病の生活支援技術が習得できる。 4. 利用者の状態、家族とのかかわり、介護福祉士の役割、多職種連携等のイメージが描ける。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入（オリエンテーション）			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第1章 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは						講義	
3	第2章 障害に応じた生活支援技術Ⅰ			第1節 肢体不自由に応じた介護			講義	
4	第2章 障害に応じた生活支援技術Ⅰ			第1節 肢体不自由に応じた介護			講義・演習	
5	第2章 障害に応じた生活支援技術Ⅰ			第2節 視覚障害に応じた介護			講義・演習	
6	第2章 障害に応じた生活支援技術Ⅰ			第3節 聴覚・言語障害に応じた介護			講義・演習	
7	第2章 障害に応じた生活支援技術Ⅰ			第4節 重複障害（盲ろう）に応じた介護			講義・演習	
8	第2章 障害に応じた生活支援技術Ⅰ			第5節 （内部障害）心臓機能障害に応じた介護			講義・演習	
9	第2章 障害に応じた生活支援技術Ⅰ			第6節 （内部障害）呼吸機能障害に応じた介護			講義・演習	
10	第2章 障害に応じた生活支援技術Ⅰ			第7節 （内部障害）腎機能障害に応じた介護			講義・演習	
11	第2章 障害に応じた生活支援技術Ⅰ			第8節 （内部障害）膀胱・直腸機能障害に応じた介護			講義・演習	
12	第2章 障害に応じた生活支援技術Ⅰ			第9節 （内部障害）小腸機能障害に応じた介護			講義・演習	
13	第2章 障害に応じた生活支援技術Ⅰ			第10節 （内部障害）HIVによる免疫機能障害に応じた介護			講義・演習	
14	第2章 障害に応じた生活支援技術Ⅰ			第11節 （内部障害）肝臓機能障害に応じた介護			講義・演習	
15	第2章 障害に応じた生活支援技術Ⅰ			第12節 重症心身障害に応じた介護			講義・演習	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座 8 生活支援技術Ⅲ」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				定期試験 60% 授業態度（授業貢献度） 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	生活支援技術Ⅲ－２				単位数	1	時間数	30						
対象学生	2年	開設期	通年	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無						
目的及びねらい	障害や疾病に応じて根拠に基づいた介護実践を行うため、各障害・疾病を理解し生活介護技術を習得する。													
授業概要	障害や疾病により生活上の困りごとを支援する介護福祉士として、どのようなかわりができるのかを事例を交えながら講義と演習を行う。													
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害や疾病の概要が理解できる。 2. 障害や疾病により生じる生活上の困りごとを理解できる。 3. 各障害や疾病の生活支援技術が習得できる。 4. 利用者の状態、家族とのかかわり、介護福祉士の役割、多職種連携等のイメージが描ける。 													
回数	項目			内容			授業・学習方法							
1	導入（オリエンテーション）			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義							
2	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ			第1節 知的障害に応じた介護			講義・演習							
3	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ			第1節 知的障害に応じた介護			講義・演習							
4	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ			第2節 精神障害に応じた介護			講義・演習							
5	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ			第2節 精神障害に応じた介護			講義・演習							
6	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ			第3節 高次機能障害に応じた介護			講義・演習							
7	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ			第3節 高次機能障害に応じた介護			講義・演習							
8	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ			第3節 高次機能障害に応じた介護			講義・演習							
9	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ			第4節 発達障害に応じた介護			講義・演習							
10	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ			第4節 発達障害に応じた介護			講義・演習							
11	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ			第5節 〔難病〕筋萎縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護			講義・演習							
12	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ			第6節 〔難病〕パーキンソン病に応じた介護			講義・演習							
13	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ			第7節 〔難病〕悪性関節 リウマチに応じた介護			講義・演習							
14	第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ			第8節 〔難病〕筋ジストロフィーに応じた介護			講義・演習							
15	定期試験			試験・振り返り			試験							
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】										
<ul style="list-style-type: none"> ・「最新・介護福祉士要請講座 8 生活支援技術Ⅲ」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ 				<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">定期試験</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">60%</td> </tr> <tr> <td>授業態度（授業貢献度）</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>成果物</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> </table>					定期試験	60%	授業態度（授業貢献度）	30%	成果物	10%
定期試験	60%													
授業態度（授業貢献度）	30%													
成果物	10%													

授業概要

科目名	介護過程の基礎 I				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	介護実践における介護過程の意義と基礎的な理解をふまえ、本人の望む生活の実現に向けて介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する。							
授業概要	本人の望む生活の実現に向けて介護過程の意義とその進め方を解説する。							
到達目標	1. 介護過程の意義と基礎的理解ができる。 2. 生活課題の分析を行い、根拠に基づく課題解決の思考過程が習得できる。							
回数	項目		内容				授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)		授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明				講義	
2	第1章 介護過程とは		第1節 介護過程とは				講義	
3	第1章 介護過程とは		第1節 介護過程とは				講義	
4	第1章 介護過程とは		第1節 介護過程とは				講義・演習	
5	第1章 介護過程とは		第2節 介護過程における事例検討・事例研究の必要性				講義	
6	第1章 介護過程とは		第2節 介護過程における事例検討・事例研究の必要性				講義	
7	第2章 介護過程の理解		第1節 介護過程の展開				講義	
8	第2章 介護過程の理解		第3節 アセスメント (情報収集)				講義	
9	第2章 介護過程の理解		第3節 アセスメント (情報収集)				講義・演習	
10	第2章 介護過程の理解		第3節 アセスメント (解釈・関連づけ・統合化)				講義	
11	第2章 介護過程の理解		第3節 アセスメント (解釈・関連づけ・統合化)				講義	
12	第2章 介護過程の理解		第3節 アセスメント (解釈・関連づけ・統合化)				講義・演習	
13	第2章 介護過程の理解		第4節 介護計画の立案				講義	
14	第2章 介護過程の理解		第4節 介護計画の立案				講義・演習	
15	第2章 介護過程の理解		第5節 介護の実施 第6節 評価				講義	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座 9 介護過程」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				定期試験 60% 授業態度 (授業貢献度) 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	介護過程の基礎Ⅱ				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	介護サービス計画や協働するほかの専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解し、介護過程とチームアプローチの重要性を理解する。							
授業概要	介護過程の実践的な展開を事例で解説し、ケアマネジメントとの関係性を講義する。							
到達目標	1. 個別の事例により介護過程の実際を理解できる。 2. 介護過程というプロセスがケアマネジメントというものの大きなプロセスの中の一つであることを理解できる。 3. 介護過程を展開する上でのチームアプローチが重要であることを理解できる。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入（オリエンテーション）			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第3章 介護過程の実践的展開			第1節 介護過程の実践的展開			講義	
3	第3章 介護過程の実践的展開			第2節 「介護過程」展開の実際			講義	
4	第3章 介護過程の実践的展開			第2節 「介護過程」展開の実際			講義・演習	
5	第3章 介護過程の実践的展開			第2節 「介護過程」展開の実際			講義	
6	第3章 介護過程の実践的展開			第2節 「介護過程」展開の実際			講義・演習	
7	第3章 介護過程の実践的展開			第2節 「介護過程」展開の実際			講義	
8	第3章 介護過程の実践的展開			第2節 「介護過程」展開の実際			講義・演習	
9	第3章 介護過程の実践的展開			第2節 「介護過程」展開の実際			講義	
10	第3章 介護過程の実践的展開			第2節 「介護過程」展開の実際			講義・演習	
11	第4章 介護過程とケアマネジメント			第1節 介護過程とケアマネジメントの関係性			講義	
12	第4章 介護過程とケアマネジメント			第2節 チームアプローチにおける介護福祉士の役割			講義	
13	第5章 利用者の生活と介護過程の展開			第1節 利用者のさまざまな生活と介護過程の展開			講義	
14	第5章 利用者の生活と介護過程の展開			第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開			講義・演習	
15	第5章 利用者の生活と介護過程の展開			第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開			講義	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座 9 介護過程」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				定期試験 60% 授業態度（授業貢献度） 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	介護過程事例演習				単位数	3	時間数	90
対象学生	2年	開設期	通年	授業の種類	講義・ 演習	必須	授業担当者 実務経験	有 ・無
目的及びねらい	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。							
授業概要	在宅、施設等様々な個別の事例を、解釈・関連づけ・統合化するために、種々のアセスメントシートを使用し、個別指導を行いながら解説をする。							
到達目標	1. 種々な事例に対して、根拠のある思考過程が出来る。 2. 対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開が習得できる。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	事例1	在宅生活を支える介護過程		アセスメント (情報の整理)			講義・演習	
3	事例1	在宅生活を支える介護過程		アセスメント (情報の整理)			演習	
4	事例1	在宅生活を支える介護過程		アセスメント (情報の整理)			講義・演習	
5	事例1	在宅生活を支える介護過程		アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)			講義	
6	事例1	在宅生活を支える介護過程		アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)			演習	
7	事例1	在宅生活を支える介護過程		アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)			演習	
8	事例1	在宅生活を支える介護過程		アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)			講義・演習	
9	事例1	在宅生活を支える介護過程		計画の立案			講義	
10	事例1	在宅生活を支える介護過程		計画の立案			演習	
11	事例1	在宅生活を支える介護過程		計画の立案			演習	
12	事例1	在宅生活を支える介護過程		評価			講義・演習	
13	事例1	在宅生活を支える介護過程		評価			講義・演習	
14	事例2	施設生活を支える介護過程		アセスメント (情報の整理)			講義	
15	事例2	施設生活を支える介護過程		アセスメント (情報の整理)			演習	
16	事例2	施設生活を支える介護過程		アセスメント (情報の整理)			演習	
17	事例2	施設生活を支える介護過程		アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)			講義	
18	事例2	施設生活を支える介護過程		アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)			演習	
19	事例2	施設生活を支える介護過程		アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)			演習	
20	事例2	施設生活を支える介護過程		アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)			演習	
21	事例2	施設生活を支える介護過程		アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)			演習	
22	事例2	施設生活を支える介護過程		アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)			演習	
23	事例2	施設生活を支える介護過程		計画の立案			演習	
24	事例2	施設生活を支える介護過程		計画の立案			演習	
25	事例2	施設生活を支える介護過程		計画の立案			講義・演習	
26	事例2	施設生活を支える介護過程		評価			演習	

27	事例2 施設生活を支える介護過程	評価	講義・演習
28	事例3 施設生活を支える介護過程	アセスメント (情報の整理)	演習
29	事例3 施設生活を支える介護過程	アセスメント (情報の整理)	演習
30	事例3 施設生活を支える介護過程	アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)	演習
31	事例3 施設生活を支える介護過程	アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)	演習
32	事例3 施設生活を支える介護過程	アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)	演習
33	事例3 施設生活を支える介護過程	計画の立案	演習
34	事例3 施設生活を支える介護過程	計画の立案	演習
35	事例3 施設生活を支える介護過程	計画の立案	演習
36	事例3 施設生活を支える介護過程	評価	講義・演習
37	事例3 施設生活を支える介護過程	評価	講義・演習
38	事例4 人生の最終段階の生活を支える介護過程	アセスメント (情報の整理)	演習
39	事例4 人生の最終段階の生活を支える介護過程	アセスメント (情報の整理)	演習
40	事例4 人生の最終段階の生活を支える介護過程	アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)	演習
41	事例4 人生の最終段階の生活を支える介護過程	アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)	演習
42	事例4 人生の最終段階の生活を支える介護過程	アセスメント (情報の解釈・関連づけ・統合化)	演習
43	事例4 人生の最終段階の生活を支える介護過程	計画の立案	演習
44	事例4 人生の最終段階の生活を支える介護過程	計画の立案	演習
45	試験	試験	試験
【使用テキスト】 ・「最新・介護福祉士要請講座 9 介護過程」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ		【単位認定の方法及び評価基準】 定期試験 60% 授業態度 (授業貢献度) 30% 成果物 10%	

授業概要

科目名	介護総合演習 I				単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに介護観を形成し、専門職としての態度を養う。							
授業概要	地域における対象者の理解や本人、家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得し、本人の望む生活の実現にむけて介護過程を実践する能力を養う目的の介護実習に対しての意義や目的、また実習に向けての準備や実習後の振り返りを、演習を交え講義する。							
到達目標	1. 実習に向かうために必要な知識や技術を習得し、実施の振り返りができる。 2. 利用者の様々な暮らしを理解することができる。 3. 協働する専門職の専門性について理解できる。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第1章 介護総合演習で何を学ぶか			第1節 介護総合演習の位置づけ 第2節 介護総合演習の目的			講義	
3	第1章 介護総合演習で何を学ぶか			第2節 介護総合演習の目的			講義	
4	第1章 介護総合演習で何を学ぶか			第2節 介護総合演習の目的			講義	
5	第2章 介護実習で何を学ぶか			第1節 介護実習意義と目的			講義	
6	第2章 介護実習で何を学ぶか			第2節 介護実習の種類 (実習 I)			講義	
7	第2章 介護実習で何を学ぶか			第2節 介護実習の種類 (実習 I)			講義	
8	第2章 介護実習で何を学ぶか			第3節実習前の学びと実習後の学びのいかし方			講義・演習	
9	第2章 介護実習で何を学ぶか			第3節実習前の学びと実習後の学びのいかし方			講義・演習	
10	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第1節 介護実習前の学習の内容と方法 (実習 I)			講義	
11	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第1節 介護実習前の学習の内容と方法 (実習 I)			講義・演習	
12	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第2節 介護実習中の学習の内容と方法 (実習 I)			講義	
13	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第2節 介護実習中の学習の内容と方法 (実習 I)			講義・演習	
14	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第3節 介護実後の学習の内容と方法 (実習 I)			講義	
15	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第3節 介護実後の学習の内容と方法 (実習 I)			講義	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座 10 介護総合演習・介護実習」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				定期試験 60% 授業態度 (授業貢献度) 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	介護総合演習Ⅱ				単位数	1	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに介護観を形成し、専門職としての態度を養う。							
授業概要	地域における対象者の理解や本人、家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得し、本人の望む生活の実現にむけて介護過程を実践する能力を養う目的の介護実習に対する意義や目的、また実習に向けての準備や実習後の振り返りを、演習を交え講義する。							
到達目標	1. 実習に向かうために必要な知識や技術を習得し、実施の振り返りができる。 2. 利用者の様々な暮らしを理解することができる。 3. 協働する専門職の専門性について理解できる。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第2章 介護実習で何を学ぶか			第2節 介護実習の種類 (実習Ⅱ・1段階)			講義	
3	第2章 介護実習で何を学ぶか			第2節 介護実習の種類 (実習Ⅱ・1段階)			講義	
4	第2章 介護実習で何を学ぶか			第3節実習前の学びと実習後の学びのいかし方			講義・演習	
5	第2章 介護実習で何を学ぶか			第3節実習前の学びと実習後の学びのいかし方			講義・演習	
6	第2章 介護実習で何を学ぶか			第2節 介護実習の種類 (実習Ⅱ)			講義	
7	第2章 介護実習で何を学ぶか			第3節実習前の学びと実習後の学びのいかし方			講義・演習	
8	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第1節 介護実習前の学習の内容と方法 (実習Ⅱ)			講義	
9	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第1節 介護実習前の学習の内容と方法 (実習Ⅱ)			講義・演習	
10	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第2節 介護実習中の学習の内容と方法 (実習Ⅱ)			講義	
11	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第2節 介護実習中の学習の内容と方法 (実習Ⅱ)			講義・演習	
12	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第3節 介護実後の学習の内容と方法 (実習Ⅱ)			講義	
13	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第3節 介護実後の学習の内容と方法 (実習Ⅱ)			講義・演習	
14	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第3節 介護実後の学習の内容と方法 (実習Ⅱ)			講義・演習	
15	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第3節 介護実後の学習の内容と方法 (実習Ⅱ振り返り)			講義・演習	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座10 介護総合演習・介護実習」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				授業態度 (授業貢献度) 40% 成果物 60%				

授業概要

科目名	介護総合演習Ⅲ				単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	前期	授業の種類	講義・ 演習	必須	授業担当者 実務経験	有 ・無
目的及びねらい	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに介護観を形成し、専門職としての態度を養う。							
授業概要	地域における対象者の理解や本人、家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得し、本人の望む生活の実現にむけて介護過程を実践する能力を養う目的の介護実習に対する意義や目的、また実習に向けての準備や実習後の振り返りを、演習を交え講義する。							
到達目標	1. 実習に向かうために必要な知識や技術を習得し、実施の振り返りができる。 2. 利用者の様々な暮らしを理解することができる。 3. 協働する専門職の専門性について理解できる。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第2章 介護実習で何を学ぶか			第2節 介護実習の種類 (実習Ⅱ・2段階)			講義	
3	第2章 介護実習で何を学ぶか			第3節実習前の学びと実習後の学びのいかし方			講義・演習	
4	第2章 介護実習で何を学ぶか			第3節実習前の学びと実習後の学びのいかし方			講義・演習	
5	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第1節 介護実習前の学習の内容と方法 (実習Ⅱ・2段階)			講義	
6	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第1節 介護実習前の学習の内容と方法 (実習Ⅱ・2段階)			講義	
7	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第1節 介護実習前の学習の内容と方法 (実習Ⅱ・2段階)			講義・演習	
8	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第2節 介護実習中の学習の内容と方法 (実習Ⅱ・2段階)			講義	
9	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第2節 介護実習中の学習の内容と方法 (実習Ⅱ・2段階)			講義・演習	
10	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第2節 介護実習後の学習の内容と方法 (実習Ⅱ・2段階)			講義・演習	
11	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第2節 介護実習後の学習の内容と方法 (実習Ⅱ・2段階)			講義・演習	
12	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第2節 介護実習後の学習の内容と方法 (実習Ⅱ・2段階)			講義・演習	
13	第6章 実習Ⅱの展開			第1節 実習Ⅱのねらいと実習モデル			講義	
14	第6章 実習Ⅱの展開			第2節 実習モデル・介護過程を展開する介護実習			講義・演習	
15	定期試験			試験・振り返り			試験	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座10 介護総合演習・介護実習」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				定期試験 60% 授業態度 (授業貢献度) 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	介護総合演習Ⅳ				単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	授業の種類	講義・(演習)	必須	授業担当者 実務経験	(有) 無
目的及びねらい	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに介護観を形成し、専門職としての態度を養う。							
授業概要	地域における対象者の理解や本人、家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得し、本人の望む生活の実現にむけて介護過程を実践する能力を養う目的の介護実習に対する意義や目的、また実習に向けての準備や実習後の振り返りを、演習を交え講義する。実習や他科目で習得した技術、知識を卒業論文として発表できるように指導する。							
到達目標	1. 実習に向かうために必要な知識や技術を習得し、実施の振り返りができる。 2. 利用者の様々な暮らしを理解することができる。 3. 協働する専門職の専門性について理解できる。 4. 実習や他科目で習得した技術、知識を卒業論文で発表できる。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第2章 介護実習で何を学ぶか			第2節 介護実習の種類 (実習Ⅱ・3段階)			講義	
3	第2章 介護実習で何を学ぶか			第3節実習前の学びと実習後の学びのいかし方			講義・演習	
4	第2章 介護実習で何を学ぶか			第3節実習前の学びと実習後の学びのいかし方			講義・演習	
5	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第1節 介護実習前の学習の内容と方法 (実習Ⅱ・3段階)			講義	
6	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第1節 介護実習前の学習の内容と方法 (実習Ⅱ・3段階)			講義・演習	
7	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第2節 介護実習中の学習の内容と方法 (実習Ⅱ・3段階)			講義・演習	
8	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第2節 介護実習中の学習の内容と方法 (実習Ⅱ・3段階)			演習	
9	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第3節 介護実習後の学習の内容と方法 (実習Ⅱ・3段階)			演習	
10	第3章 介護実習準備、実習中・実施後の学びで何を学ぶか			第3節 介護実習後の学習の内容と方法 (実習Ⅱ・3段階)			講義・演習	
11	第7章 介護総合演習の実際			第1節 介護総合演習における知識と技術の統合化			講義	
12	第7章 介護総合演習の実際			第1節 介護総合演習における知識と技術の統合化 (卒業論文指導)			演習	
13	第7章 介護総合演習の実際			第1節 介護総合演習における知識と技術の統合化 (卒業論文指導)			演習	
14	第7章 介護総合演習の実際			第2節 介護総合演習における介護観の形成 (卒業論文指導)			講義・演習	
15	第7章 介護総合演習の実際			第2節 介護総合演習における介護観の形成 (卒業論文指導)			演習	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座 10 介護総合演習・介護実習」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				授業態度 (授業貢献度) 30% 卒業論文発表 50% 成果物 20%				

授業概要

科目名	こころとからだのしくみ I			単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験
							有・無
目的及びねらい	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理を理解するための基礎的な知識を理解する。						
授業概要	介護実践に必用な観察力、判断力の基盤となる人間の心理を心理学等をもとに講義する。						
到達目標	1. 人が生活するうえでこころが、どのようにはたらくのかを理解する。 2. 介護実践の根拠となる人間の心理を理解することができる。						
回数	項目		内容			授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)		授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第1章 こころのしくみを理解する		第1節 人間の欲求とは			講義	
3	第1章 こころのしくみを理解する		第1節 人間の欲求とは			講義	
4	第1章 こころのしくみを理解する		第1節 人間の欲求とは			講義	
5	第1章 こころのしくみを理解する		第2節 自己表現と尊厳			講義	
6	第1章 こころのしくみを理解する		第2節 自己表現と尊厳			講義	
7	第1章 こころのしくみを理解する		第2節 自己表現と尊厳			講義	
8	第1章 こころのしくみを理解する		第2節 自己表現と尊厳			講義	
9	第1章 こころのしくみを理解する		第2節 自己表現と尊厳			講義	
10	第1章 こころのしくみを理解する		第3節 こころのしくみの基礎			講義	
11	第1章 こころのしくみを理解する		第3節 こころのしくみの基礎			講義	
12	第1章 こころのしくみを理解する		第3節 こころのしくみの基礎			講義	
13	第1章 こころのしくみを理解する		第3節 こころのしくみの基礎			講義	
14	第1章 こころのしくみを理解する		第3節 こころのしくみの基礎			講義	
15	第1章 こころのしくみを理解する		第3節 こころのしくみの基礎			講義	
【使用テキスト】 ・「最新・介護福祉士要請講座 11 こころとからだのしくみ」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				【単位認定の方法及び評価基準】 定期試験 60% 授業態度 (授業貢献度) 30% 成果物 10%			

授業概要

科目名	こころとからだのしくみⅡ				単位数	4	時間数	60
対象学生	1年	開設期	通年	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人体の構造・機能の基礎的な知識を理解する。生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解し、介護実践の根拠を習得する。							
授業概要	介護実践に必用な観察力、判断力の基盤となる人体の構造・機能を解剖学、生理学、運動学等をもとに講義する。生活支援の場面に応じた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみについて講義する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の維持・恒常のしくみが理解できる。 2. 人が生活行為を行うためには人体の各器官が、どのようなしくみと働きをもっているのかを理解できる。 3. 生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみの基礎的な知識が、理解できる。 4. 生活支援を行うための介護実践の根拠が理解できる。 							
回数	項目		内容				授業・学習方法	
1	導入（オリエンテーション）		授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明				講義	
2	序章 「健康」とは何か						講義	
3	序章 「健康」とは何か						講義	
4	序章 「健康」とは何か						講義	
5	第2章 からだのしくみを理解する		第1節 からだのしくみ				講義	
6	第2章 からだのしくみを理解する		第1節 からだのしくみ				講義	
7	第2章 からだのしくみを理解する		第1節 からだのしくみ				講義	
8	第2章 からだのしくみを理解する		第1節 からだのしくみ				講義	
9	第2章 からだのしくみを理解する		第1節 からだのしくみ				講義	
10	第2章 からだのしくみを理解する		第1節 からだのしくみ				講義	
11	第2章 からだのしくみを理解する		第1節 からだのしくみ				講義	
12	第2章 からだのしくみを理解する		第1節 からだのしくみ				講義	
13	第2章 からだのしくみを理解する		第1節 からだのしくみ				講義	
14	第2章 からだのしくみを理解する		第1節 からだのしくみ				講義	
15	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ		第1節 移動のしくみ				講義	
16	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ		第1節 移動のしくみ				講義	

17	第3章 移動に関連したところとからだのしくみ	第2節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響 第3節 変化の気づきと対応	講義
18	第4章 身じたくに関連したところとからだのしくみ	第1節 身じたくのしくみ	講義
19	第4章 身じたくに関連したところとからだのしくみ	第2節 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 第3節 変化の気づきと対応	講義
20	第5章 食事に関連したところとからだのしくみ	第1節 食事のしくみ	講義
21	第5章 食事に関連したところとからだのしくみ	第1節 食事のしくみ	講義
22	第5章 食事に関連したところとからだのしくみ	第2節 心身の機能低下が食事に及ぼす影響 第3節 変化の気づきと対応	講義
23	第6章 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	第1節 入浴・清潔保持のしくみ	講義
24	第6章 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	第2節 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 第3節 変化の気づきと対応	講義
25	第7章 排泄に関連したところとからだのしくみ	第1節 排泄のしくみ	講義
26	第7章 排泄に関連したところとからだのしくみ	第1節 排泄のしくみ	講義
27	第7章 排泄に関連したところとからだのしくみ	第2節 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 第3節 変化の気づきと対応	講義
28	第8章 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	第1節 休息・睡眠のしくみ	講義
29	第8章 休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	第2節 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 第3節 変化の気づきと対応	講義
30	定期試験	試験・振り返り	試験
【使用テキスト】 ・「最新・介護福祉士要請講座 11 ところとからだのしくみ」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ		【単位認定の方法及び評価基準】 定期試験 60% 授業態度（授業貢献度） 30% 成果物 10%	

授業概要

科目名	こころとからだのしくみⅢ				単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	通年	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及び狙い	人生の最終段階にある人と家族を支援するために終末期の心身の変化生活に及ぼす影響について学び、基礎的な知識を理解する。							
授業概要	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみについて講義する。							
到達目標	1. 終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響が理解できる。 2. 人生の最終段階にある人と家族の支援を行うための基礎的な知識が理解できる。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入（オリエンテーション）			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第9章 人生の最終段階のケアに			第1節 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方			講義	
3	第9章 人生の最終段階のケアに			第1節 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方			講義	
4	第9章 人生の最終段階のケアに			第1節 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方			講義	
5	第9章 人生の最終段階のケアに			第2節 「死」に対するこころの理解			講義	
6	第9章 人生の最終段階のケアに			第2節 「死」に対するこころの理解			講義	
7	第9章 人生の最終段階のケアに			第2節 「死」に対するこころの理解			講義	
8	第9章 人生の最終段階のケアに			第2節 「死」に対するこころの理解			講義	
9	第9章 人生の最終段階のケアに			第3節 終末期から危篤状態、死後のからだの理解			講義	
10	第9章 人生の最終段階のケアに			第3節 終末期から危篤状態、死後のからだの理解			講義	
11	第9章 人生の最終段階のケアに			第3節 終末期から危篤状態、死後のからだの理解			講義	
12	第9章 人生の最終段階のケアに			第3節 終末期から危篤状態、死後のからだの理解			講義	
13	第9章 人生の最終段階のケアに			第4節 終末期における医療職との連携			講義	
14	第9章 人生の最終段階のケアに			第4節 終末期における医療職との連携			講義	
15	定期試験			筆記試験と振り返り			試験	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座 11 こころとからだのしくみ」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				定期試験 60% 授業態度（授業貢献度） 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	発達と老化の理解 I				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期（乳幼児、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する。							
授業概要	人間の成長と発達の観点から人の一生についての知識を講義し、ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について解説する。							
到達目標	1. 人間の成長と発達の基礎的知識を習得する。 2. ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病の理解ができる。							
回数	項目		内容				授業・学習方法	
1	導入（オリエンテーション）		授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明				講義	
2	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識		第1節 成長・発達の考え方				講義	
3	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識		第2節 成長・発達の原則・法則				講義	
4	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識		第3節 成長・発達に影響する要因				講義	
5	第2章 人間の発達段階と発達課題		第1節 発達理論				講義	
6	第2章 人間の発達段階と発達課題		第2節 発達段階と発達課題				講義	
7	第2章 人間の発達段階と発達課題		第3節 身体的機能の成長と発達				講義	
8	第2章 人間の発達段階と発達課題		第3節 身体的機能の成長と発達				講義	
9	第2章 人間の発達段階と発達課題		第4節 心理的機能の発達				講義	
10	第2章 人間の発達段階と発達課題		第5節 社会的機能の発達				講義	
11	第2章 人間の発達段階と発達課題		第5節 社会的機能の発達				講義	
12	第3章 老年期の特徴と発達課題		第1節 老年期の定義				講義	
13	第3章 老年期の特徴と発達課題		第2節 老化とは				講義	
14	第3章 老年期の特徴と発達課題		第3節 老年期の発達課題				講義	
15	第3章 老年期の特徴と発達課題		第4節 老年期をめぐる今日的課題				講義	
【使用テキスト】 ・「最新・介護福祉士要請講座 12 発達と老化の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				【単位認定の方法及び評価基準】 定期試験 60% 授業態度（授業貢献度） 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	発達と老化の理解Ⅱ				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための知識を習得する。							
授業概要	老化にともなう心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基礎的な知識を講義し、それらがどのように生活に影響を与え、生活を支援するための基礎的な知識を講義する。							
到達目標	1. 老年期における生活支援技術の根拠となる知識を習得する。 2. 老年期にある人に対し、尊厳の保持や自立支援をふまえた介護実践の知識を習得できる。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第4章 老化にともなうところとからだの変化			第1節 老化にともなう身体的変化と生活の影響			講義	
3	第4章 老化にともなうところとからだの変化			第2節 老化にともなう心理的变化と生活の影響			講義	
4	第4章 老化にともなうところとからだの変化			第2節 老化にともなう心理的变化と生活の影響			講義	
5	第4章 老化にともなうところとからだの変化			第3節 老化にともなう社会的な変化と生活の影響			講義	
6	第5章 高齢者と健康			第1節 健康長寿に向けての健康			講義	
7	第5章 高齢者と健康			第2節 高齢者の症状・疾患の特徴			講義	
8	第5章 高齢者と健康			第2節 高齢者の症状・疾患の特徴			講義	
9	第5章 高齢者と健康			第2節 高齢者の症状・疾患の特徴			講義	
10	第5章 高齢者と健康			第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点			講義	
11	第5章 高齢者と健康			第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点			講義	
12	第5章 高齢者と健康			第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点			講義	
13	第5章 高齢者と健康			第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点			講義	
14	第5章 高齢者と健康			第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点			講義	
15	第5章 高齢者と健康			第4節 保健医療職との連携			講義	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座 12 発達と老化の理解」介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				定期試験 60% 授業態度 (授業貢献度) 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	認知症の理解 I				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	前期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有 無
目的及びねらい	認知症の本質や認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する。							
授業概要	認知症の本質や原因となる疾患を解説し、認知症の症状・診断・治療・予防を講義する。							
到達目標	1. 認知症の本質や特有の症状が理解できる。 2. 認知症の段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識が習得できる。							
回数	項目		内容				授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)		授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明				講義	
2	第1章 認知症の基礎的理解		第1節 認知症のある高齢者の現状と今後				講義	
3	第1章 認知症の基礎的理解		第1節 認知症とは何か				講義	
4	第1章 認知症の基礎的理解		第2節 脳のしくみ				講義	
5	第1章 認知症の基礎的理解		第2節 脳のしくみ				講義	
6	第1章 認知症の基礎的理解		第3節 認知症の人の心理				講義	
7	第1章 認知症の基礎的理解		第3節 認知症の人の心理				講義	
8	第2章 認知症の症状・診断・治療・予防		第1節 中核症状の理解				講義	
9	第2章 認知症の症状・診断・治療・予防		第2節 生活障害の理解				講義	
10	第2章 認知症の症状・診断・治療・予防		第2節 生活障害の理解				講義	
11	第2章 認知症の症状・診断・治療・予防		第3節 BPSDの理解				講義	
12	第2章 認知症の症状・診断・治療・予防		第3節 BPSDの理解				講義	
13	第2章 認知症の症状・診断・治療・予防		第4節 認知症の診断と重症度				講義	
14	第2章 認知症の症状・診断・治療・予防		第5節 認知症の原因疾患と症状・生活障害				講義	
15	第2章 認知症の症状・診断・治療・予防		第6節 認知症の治療薬 第7節 認知症の予防				講義	
【使用テキスト】 ・「最新・介護福祉士要請講座 13 認知症の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				【単位認定の方法及び評価基準】 定期試験 60% 授業態度 (授業貢献度) 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	認知症の理解Ⅱ				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	認知症のケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について、および認知症に伴う生活の影響を理解し、本人主体の生活支援を行う認知症ケアの実践となる知識を習得する。さらに認知症の人の生活を支える地域でのサポート体制や家族支援に対する基礎的な知識を理解する。							
授業概要	本人主体の理念に基づいた認知症理念を解説し、認知症ケアの実際を講義する。家族支援に対して介護福祉士の役割を講義し、地域でのサポート体制を解説する。							
到達目標	1. 認知症に伴う生活の影響が理解でき、その特性を踏まえたアセスメントができる。 2. 認知症の人を支える地域のサポート体制や家族支援に対する基礎的な知識が習得できる。							
回数	項目	内容					授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)	授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明					講義	
2	第3章 認知症ケアの歴史と理念	第1節 認知症を取り巻く状況 これまで—今—これから					講義	
3	第3章 認知症ケアの歴史と理念	第2節 認知症ケアの理念と視点					講義	
4	第3章 認知症ケアの歴史と理念	第3節 認知症当事者の視点からみえるもの					講義	
5	第4章 認知症ケアの実際	第1節 パーソン・センタード・ケア					講義	
6	第4章 認知症ケアの実際	第2節 認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール					講義	
7	第4章 認知症ケアの実際	第2節 認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール					講義	
8	第4章 認知症ケアの実際	第3節 認知症の人とのコミュニケーション					講義	
9	第4章 認知症ケアの実際	第4節 認知症の人へのケア					講義	
10	第4章 認知症ケアの実際	第5節 認知症の人へのさまざまなアプローチ					講義	
11	第4章 認知症ケアの実際	第6節 認知症の人の終末期医療と介護					講義	
12	第4章 認知症ケアの実際	第7節 環境づくり					講義	
13	第5章 介護者支援	第1節 家族への支援 第2節 介護福祉職への支援					講義	
14	第6章 認知症の人の地域生活支援	第1節 制度、サービス、機関、地域づくり 第2節 多職種連携と協働					講義	
15	第6章 認知症の人の地域生活支援	第1節 制度、サービス、機関、地域づくり 第2節 多職種連携と協働					講義	
【使用テキスト】					【単位認定の方法及び評価基準】			
・「最新・介護福祉士要請講座 13 認知症の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ					定期試験 60% 授業態度 (授業貢献度) 30% 成果物 10%			

授業概要

科目名	障害の理解 I				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。							
授業概要	障害のある人と向き合うための基本的な知識である障害者福祉の基本理念、障害者福祉制度を取り上げ、地域生活を支える社会資源、関係機関との連携、関係職種とのチームアプローチのあり方を解説する。さらに障害のある人を支える家族に焦点を当て、家族支援のあり方を講義する。							
到達目標	1. 障害のある人の生活を地域で支えるサポート体制や多職種連携、協働により支援の基礎的な知識が理解できる。 2. 障害のある人を支える家族の課題について理解し家族の状態に応じた支援を習得する。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)			授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明			講義	
2	第1章 障害の概念と障害者福祉の基本理念			第1節 障害の概念			講義	
3	第1章 障害の概念と障害者福祉の基本理念			第2節 障害者福祉の基本理念			講義	
4	第1章 障害の概念と障害者福祉の基本理念			第2節 障害者福祉の基本理念			講義	
5	第1章 障害の概念と障害者福祉の基本理念			第2節 障害者福祉の基本理念			講義	
6	第1章 障害の概念と障害者福祉の基本理念			第3節 障害者福祉に関する制度			講義	
7	第1章 障害の概念と障害者福祉の基本理念			第3節 障害者福祉に関する制度			講義	
8	第1章 障害の概念と障害者福祉の基本理念			第4節 障害者福祉制度と介護保険制度			講義	
9	第1章 障害の概念と障害者福祉の基本理念			第4節 障害者福祉制度と介護保険制度			講義	
10	第4章 連携と協働			第1節 地域のサポート体制			講義	
11	第4章 連携と協働			第1節 地域のサポート体制			講義	
12	第4章 連携と協働			第2節 チームアプローチ			講義	
13	第4章 連携と協働			第2節 チームアプローチ			講義	
14	第5章 家族への支援			第1節 家族への支援とは			講義	
15	第5章 家族への支援			第2節 家族の介護力の評価と介護負担軽減			講義	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座 14 障害の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				定期試験 60% 授業態度 (授業貢献度) 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	障害の理解Ⅱ				単位数	2	時間数	30
対象学生	2年	開設期	通年	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者実務経験	有 無
目的及びねらい	障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の医学的・心理的側面の基礎的知識を理解し、特性に応じた支援を習得する。							
授業概要	障害別の医学的・心理的側面の基礎的知識を講義し、特性に応じた支援を解説する。							
到達目標	1. 障害別の医学的・心理的側面から基礎的知識が理解できる。 2. 障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、障害の特性に応じた支援の知識を習得する。							
回数					内容		授業・学習方法	
1	導入 (オリエンテーション)				授業概要。到達目標及び授業の進行に関する説明		講義	
2	第2章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ				第1節 障害のある人の心理		講義	
3	第2章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ				第2節 肢体不自由 (運動機能障害)		講義	
4	第2章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ				第2節 肢体不自由 (運動機能障害)		講義	
5	第2章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ				第3節 視覚障害		講義	
6	第2章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ				第4節 聴覚・言語障害		講義	
7	第2章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ				第5節 重複障害		講義	
8	第2章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ				第6節 内部障害		講義	
9	第2章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ				第7節 重症心身障害		講義	
10	第3章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ				第1節 知的障害		講義	
11	第3章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ				第2節 精神障害		講義	
12	第3章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ				第3節 高次脳機能障害		講義	
13	第3章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ				第4節 発達障害		講義	
14	第3章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ				第5節 難病		講義	
15	定期試験				試験・振り返り		試験	
【使用テキスト】 ・「最新・介護福祉士要請講座 14 障害の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ					【単位認定の方法及び評価基準】 定期試験 60% 授業態度 (授業貢献度) 30% 成果物 10%			

授業概要

科目名	医療的ケア①				単位数	2	時間数	30
対象学生	1年	開設期	後期	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」等についての基礎的知識を理解する。							
授業概要	医療的ケア実施の基礎として、医療的ケアはどういうものか、また介護福祉士が、喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことが出来るようになった背景など、医療的ケアを安全に実施するための基礎知識と、講義する。							
到達目標	1. 医療的ケア実施の基礎的知識を理解することができる。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	第1章 医療的ケア実施の基礎			第1節 医療的ケア			講義	
2	第1章 医療的ケア実施の基礎			第1節 医療的ケア			講義	
3	第1章 医療的ケア実施の基礎			第1節 医療的ケア			講義	
4	第1章 医療的ケア実施の基礎			第1節 医療的ケア			講義	
5	第1章 医療的ケア実施の基礎			第1節 医療的ケア			講義	
6	第1章 医療的ケア実施の基礎			第1節 医療的ケア			講義	
7	第1章 医療的ケア実施の基礎			第2節 安全な療養生活			講義	
8	第1章 医療的ケア実施の基礎			第2節 安全な療養生活			講義	
9	第1章 医療的ケア実施の基礎			第2節 安全な療養生活			講義	
10	第1章 医療的ケア実施の基礎			第3節 清潔保持と感染予防			講義	
11	第1章 医療的ケア実施の基礎			第3節 清潔保持と感染予防			講義	
12	第1章 医療的ケア実施の基礎			第3節 清潔保持と感染予防			講義	
13	第1章 医療的ケア実施の基礎			第3節 清潔保持と感染予防			講義	
14	第1章 医療的ケア実施の基礎			第3節 清潔保持と感染予防			講義	
15	第1章 医療的ケア実施の基礎			第4節 健康状態の把握			講義	
16	第1章 医療的ケア実施の基礎			第4節 健康状態の把握			講義	
17	第1章 医療的ケア実施の基礎			第4節 健康状態の把握			講義	
18	第1章 医療的ケア実施の基礎			第4節 健康状態の把握			講義	
19	第1章 医療的ケア実施の基礎			第4節 健康状態の把握			講義	
20	定期試験			筆記試験・振り返り			試験	
【使用テキスト】 ・「最新・介護福祉士要請講座 15 医療的ケア」介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				【単位認定の方法及び評価基準】 定期試験 60% 授業態度（授業貢献度） 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	医療的ケア②				単位数	1	時間数	20
対象学生	2年	開設期	通年	授業の種類	講義・演習	必須	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	喀痰吸引と経管栄養について根拠に基づく手法が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する。							
授業概要	喀痰吸引についての基礎的知識、実施手順方法と留意点と経管栄養（胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養）に関する基礎的知識、実施手順とその留意点について学ぶ。							
到達目標	1. 喀痰吸引についての基礎的知識、実施手順方法が理解できる。 2. 経管栄養（胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養）に関する基礎的知識、実施手順とその留意点について理解することができる。							
回数	項目		内容				授業・学習方法	
1	第2章 喀痰吸引（基礎的知識、実施手順）		第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論				講義	
2	第2章 喀痰吸引（基礎的知識、実施手順）		第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論				講義	
3	第2章 喀痰吸引（基礎的知識、実施手順）		第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論				講義	
4	第2章 喀痰吸引（基礎的知識、実施手順）		第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順解説				講義	
5	第2章 喀痰吸引（基礎的知識、実施手順）		第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順解説				講義	
6	第2章 喀痰吸引（基礎的知識、実施手順）		第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順解説				講義	
7	第2章 喀痰吸引（基礎的知識、実施手順）		第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順解説				講義	
8	第3章 経管栄養（基礎的知識・実施手順）		第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論				講義	
9	第3章 経管栄養（基礎的知識・実施手順）		第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論				講義	
10	第3章 経管栄養（基礎的知識・実施手順）		第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論				講義	
11	第3章 経管栄養（基礎的知識・実施手順）		第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説				講義	
12	第3章 経管栄養（基礎的知識・実施手順）		第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説				講義	
13	第3章 経管栄養（基礎的知識・実施手順）		第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説				講義	
14	定期試験		筆記試験・振り返り				試験	
【使用テキスト】				【単位認定の方法及び評価基準】				
・「最新・介護福祉士要請講座 15 医療的ケア」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2022年2月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				定期試験 60% 授業態度（授業貢献度） 30% 成果物 10%				

授業概要

科目名	医療的ケア演習				単位数	1	時間数	12
対象学生	2年	開設期	後期	授業の種類	講義・ 演習	必須		
目的及びねらい	喀痰吸引、経管栄養の準備から実施、報告、記録について演習をとおして安全・適切に実施するための必要な知識、技術を習得し、救急蘇生法の手順を理解する。							
授業概要	喀痰吸引、経管栄養の準備から実施、報告、記録について、安全・適切に実施するための必要な知識、技術を習得するための演習を行い、救急蘇生法の手順を講義し、その演習をする。							
到達目標	1. 喀痰吸引、経管栄養の準備から実施、報告、記録の知識、技術が習得できる。 2. 救急蘇生法の手順が習得できる。							
回数	項目			内容			授業・学習方法	
1	第4章 演習			第1節 喀痰吸引のケア実施の手引き			演習	
2	第4章 演習			第1節 喀痰吸引のケア実施の手引き			演習	
3	第4章 演習			第1節 喀痰吸引のケア実施の手引き			演習	
4	第4章 演習			第1節 喀痰吸引のケア実施の手引き			演習	
5	第4章 演習			第2節 経管栄養のケア実施の手引き			演習	
6	第4章 演習			第2節 経管栄養のケア実施の手引き			演習	
7	第4章 演習			第2節 経管栄養のケア実施の手引き			演習	
8	第4章 演習			第3節 救急蘇生法の手引き			講義・演習	
【使用テキスト】 ・「最新・介護福祉士要請講座 15 医療的ケア」 介護福祉士養成講座編集委員会編 2019年3月発行 中央法規出版 ・担当教員作成レジュメ				【単位認定の方法及び評価基準】 演習試験 100%				

授業概要

科目名	介護保険事務				単位数	1	時間数	30
対象学生	2年	開設期	後期	授業の種類	講義・演習	選択	授業担当者 実務経験	有・無
目的及びねらい	介護保険制度における介護費請求事務に対応できる実務知識の習得							
授業概要	介護保険請求事務における講義と演習							
到達目標	習得した知識と技術を認定試験において評価し、職業能力の向上を目指す。							
回数	内 容						授業・学習方法	
1	介護保険制度の仕組みとサービス						講義	
2	要介護状態区分						講義	
3	介護サービスの種類						講義	
4	介護給付費請求の実務と実際						講義・演習	
5	介護給付費						講義・演習	
6	予防給付費						講義・演習	
7	介護給付費請求の記載						講義・演習	
8	まとめ						演習	
9	給付費明細書						講義・演習	
10	サービス費用の計算①						講義・演習	
11	サービス費用の計算②						演習	
12	公費の請求方法						講義・演習	
13	返戻・査定						講義	
14	サービス区分の記載事項と内容						講義・演習	
15	練習問題と解説						演習	
【使用テキスト】 参考資料適時紹介				【単位認定の方法及び評価基準】 授業出席 10% レポート 90%				